

新年あけましておめでとうございます。思い起こせば昨年の今時分は、当会創立四十周年を目前に東奔西走し会員の皆様方におかれましては多大なるご理解とご協力を頂きましたことあらためて心より感謝申し上げます。おかげさまで昨年は柳井として初めて弘前との交流を持つことが叶いました。弘前の今井二三夫氏や三上隆博氏からの絶大なサポートもあり主にメディア向けにPRさせていただきました。柳井班(昨夏弘前に行つた当会メンバー含む有志一同)としても令和二年度は弘前市民の皆様に向けて繰り返し『柳井の金魚ちようちん』の認知を広げていきたいと考えています。弘前側のご理解を頂きながら(予定ですが)今夏は以下のプロジェクトを進めていきたいと考えております。

一・『弘前の百貨店等での金魚ちようちんと金魚ねぷたを持つた子ども

## 謙虚にコツコツ 「令和の北前船プロジェクト」

幹事 木阪泰之

二・『柳井→弘前ツアーフェスティバル』  
三・『弘前×柳井コラボねぷた作成』  
四・『柳井金魚ちようちん祭り』

柳井市内の倉庫に保管されている古いねぷたの骨組みに弘前ねぷたの絵を描いたものを貼り、金魚ちようちん祭りで引き回すのです。※今回柳井中学校美術部の生徒を数人弘前に派遣し、令和三年度にその中学生がねぷたの絵を描くという事も検討します。



### 第八十一号

柳井市白壁の町並みを  
守る会  
事務局(皿田治)  
TEL:090-1012-4204

において、柳井の金魚ちよ  
うちんの製作体験を行いたいと考えていま  
す。昨夏、弘前の皆様よりリクエストを多々  
頂戴した案件です。

五・『金魚ちようちん・金魚ねぷた製作&  
交換』

両市民が自市の金魚ねぷた、金魚ちよう  
ちんを製作して双方の市に送り装飾します。  
弘前と柳井それぞれの街で、送付先の街の  
ことを思いながら自分の街のものを作ること  
で、自分の街と相手の街それぞれへの関  
心・愛着を深めます。

以上、あくまで有志で話し合った内容で  
あり、時間や予算の都合上、令和三年度に  
向けてのコンテンツも多々あります。が思  
いとっています。参加者想定は一般市民を  
主としていますが、当会関係者で構成する  
可能性もあります。



当会の皆様の想  
いを次代に繋ぐ代  
表としてしつかり  
と努めたいと存じ  
ます。引き続きご  
支援、ご協力の程  
よろしくお願ひ申  
し上げます。



## 年の瀬の白壁の街に響く 「火の用心！」

幹事 武居弘和

年の瀬迫る令和元年十二月二十八日、当会と「金屋自治会」の合同事業「年末夜回り」が行われた。

この年二十一回目を迎えるこの事業に参加したのは、両会の会員を中心に、小学生

午後九時、尾林邸倉庫の本部を出発した参加者は、まず白壁通りにおける出陣式で、佐川会長の合図により参加者みんなが声を合わせて「えい、えい、おう！」を連呼した後、二班に分かれて金屋・古市地区東回りと西回りの二つの夜回りコースを見回った。

参加者たちは、今年からLED使用によ



白壁の町並みへの理解と地域への愛着を醸成し、次代への継承が期待される行事となっている。

令和最初の夜回りは、二十八日の九時の第一回目に始まり、十時と十一時の計三回行われた。毎年この夜回りは、年末の二日間行われるのが通例だが、誠に残念乍ら、翌二十九日は雨天のため、中止となつた。

から八十一歳と幅広い年齢の地域にお住まいの有志の皆さん十七名、そして柳井中学校からボランティア参加の男子六名（三戸駿也さん、関本文弥さん、横山翔一さん、二上眞如さん、弘茂朋晃さん、速金玲音さん、以上二年生、）と女子二名（吉松明華さん、三浦碧依さん以上三年生）計二十五名であつた。

平成十一年から続くこの夜回りにより、地域住民の防災意識の高まりを図るとともに、一年の終わりにこの事業に参加することで、地域の連携と懇親を深めることにも役立つている。また、平成二十八年からは、柳井中学校のボランティア学生の参加が始まり、毎年たくさんの学生たちがこの行事に参加している。この行事に中学生たちが参加することで、学生たちと地域の住民たちの交流も生まれ、また、学生たちの、国選定の重要伝統的建造物群保存地区である白壁の町並みへの理解と地域への愛着を醸成し、次代への継承が期待される行事となっている。

白壁の町並みへの理解と地域への愛着を醸成し、次代への継承が期待される行事となっている。

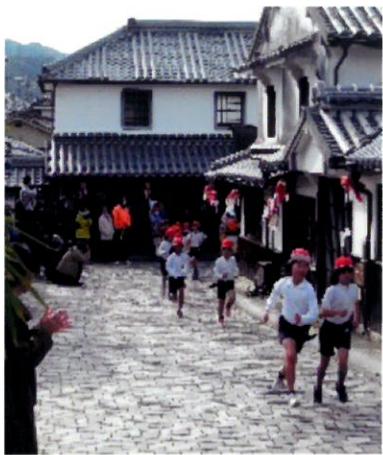
令和最初の夜回りは、二十八日の九時の第一回目に始まり、十時と十一時の計三回行われた。毎年この夜回りは、年末の二日間行われるのが通例だが、誠に残念乍ら、翌二十九日は雨天のため、中止となつた。

り明るい灯火となつた手提げ金魚ちようちんを手に持ち、拍子木を打ちながら、寒風の中、地域住民の安全を祈願しながら、声を合わせ「火の用心！」と防火を呼びかけた。

## 白壁の町並みを颯爽と

令和となつて初めて、通算で第十三回目となる、柳井小学校による白壁マラソン大会（校内持久走大会）が、師走の五日に開催された。

今や白壁通りの年末の風物詩となつているこの催しは、同校の一、二年生は運動場の周回路を、三年生以上が白壁の町並みを走るというもの。十二年前に同校の新校舎が完成した記念行事の一環として企画され、継続されているもの。児童に郷土を愛する心を育ませ、元気な児童を地域住民に見てもらい、地域に根差した開かれた学校づくりに努めることを目的とする。従つて、当会としても全面的に応援し、商店ではその時間帯の町並みでの車等の使用を控えるとか、沿道で拍手。声援を送る等の協力をしている



る。今年度の持久走参加者は、一年生九十二人、二年生九十六人、三年生七十九人、四年生百人、五年生八十八人、六年生百二人の男女総勢五百五十七人で、このうち、三年生と四年生百七十九人が、白壁通りの西端から入り、佐川家前で左折して学校に向けて駆け上がる一・二kmのコース、五年生の男女は、東端の尾林邸前を左折して、歩道を駆け上がって、学校に戻る一・五kmに挑んだ。

当日は師走に入り比較的冷え込む気候であつたが、防寒具に身を包んだ父兄・祖父母を始め、地域住民や観光客も参加して、拍手と掛け声で応援。また、このところの恒例となつてているのだが、近くの幼稚園児、今年は、放光保育園と柳井幼稚園の園児たち総勢百三十人も、お兄ちゃん、お姉ちゃんに、黄色い声を張り上げて声援を送つていた。

昨年は本紙で出走順について、以前のように上級生が先の方が多いのではないかと提言したが、今年は、交通整理員について、苦言を呈したい。特に、一方通行の入り口となる白壁通りの東側に立つ人は、もう少し強く協力要請をしていいのではないか。今回も、車、自転車が、児童が走行中にもかかわらず、進入ってきて立ち往生するシーンがあった。

## おひなさま巡り 予告とご協力願い

前号一頁でお知らせした通り、今年で二十回目となる「おひなさま巡り」を、例年より早く二月四日（火）から三月二十九日（日）まで開催します。また、期間中の三月十五日（日）に、柳井市観光協会主催の花・香・遊に合わせて、恒例の「おひなさまウォークラリー」も実施いたします。

つきましては、各家、お店でお持ちのおひなさまを、大体右の期間に会うようそれぞれのご都合に合わせて飾つていただき、観光客・住民の鑑賞に供していただくようお願いいたします。また、ウォークラリーについては、その日が近づきましたら別途個別にお願いに上がります。

毎年町並み資料館には、市内外の有志の方から寄贈を受けたおひなさまを飾つておりますが、今年もこの飾りつけを二月三日（月）に実施することにしております。会員の方のお手伝い、特に最初の段階で重量物の運搬等もありますので、男性の力があれば助かります。三十分だけでも手をお貸しいただければと存じます。手伝つてやろうという方は、皿田（〇九〇一一〇一二一四二〇四）までご一報ください。

ウォークラリーと三月末の片付のお手伝いについては、改めてお願ひします。



現在の柳井市の範囲は、「広島」・「松山」の二つの図郭に分かれしており、上の部分は「広島」、下の部分は

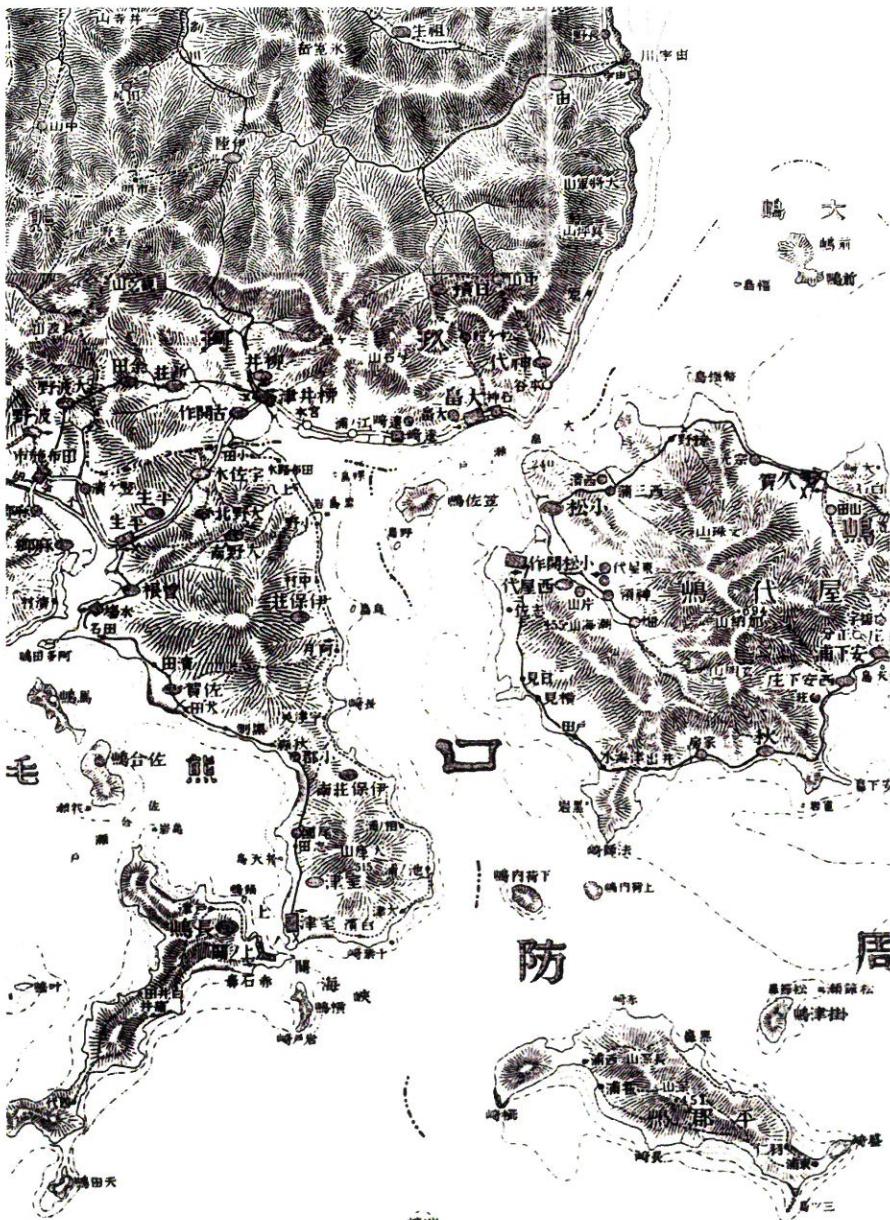
今回紹介するのは、陸地測量部（国土交通省國土地理院の前身）が柳井近辺で初めて作成したとみられる『二十万分一輯製図（しゅうせいいず）』である。これは國土地理院による、明治十七（一八八四）年、陸軍參謀本部が、伊能図、内務省の地形図・河川図及び各府県庁作成の地図その他を資料として、二十万分一図の編集に着手し、明治二十六（一八九三）年までに国土の全域（一部の離島を除く）を完成させた。当時の我が国における、統一図式による最大縮尺の地図である。

前回までは、江戸時代につくられた地図、絵図を中心に紹介してきた。今回からは、明治期以降の地図を中心に取り上げていきたい。

「松山」となっている。掲載の図は、その二つの地図の一部をつなげたものである。これらの原図は、いずれも明治二十一（一八八八）年に作成されている。この翌年に、市町村制が施行されたが、施行時、県内の市は赤間関市（現・下関市）のみで、町は岩国、柳井津、山口、萩の四町だった。図中の神代、大畠、遠崎、柳井津、古開作、宇佐木へと続く道路は、主要道路として二重線で描かれ、柳井津から伊陸方面、柳井津から新庄、余田方面の道路は実線で

描かれている。伊保庄、阿月方面は点線となつておらず、各々区別されている。平生町と田布施町との境に架かっていた初代八海橋は、明治十九（一八八六）年に完成した。地図が作成されたのはその後だが、主要道路は平生から豎ヶ浜、田布施、麻郷と大きく迂回しており、架橋が反映されていないことがわかる。

地形は、ケバ（線）で表現され、伊陸には大きな盆地であるにも関わらず山地であるように描かれているところが興味深い。



【20万分の1陸地測量部輯製図「広島」「松山」の一部を結合（国土地理院蔵）】

## 柳井の地図総図

岸田 稔明

### 第一十四回 陸地測量部輯製図

「広島」「松山」（国土地理院蔵）

# 商都柳井の歴史 ゼの十一

松 島 幸 夫

## 柳井津の経済発展(四) 商人の新旧交代



江戸時代は身分制社会で、武士が農民から年貢米を収奪することで成り立っていました。商業活動は、資本主義社会になつてから大きく発展をしますが、封建社会では厳しく制限されていました。吉川領内で商業活動をする町は、岩国錦見町と柳井津町と玖珂町の三か所だけでした。

その中で最も繁栄したのは柳井津です。港町として、海運を利用しての商売です。馬や荷車での運送は、量がされています。一方、船での輸送量は格段の桁違います。しかも、北陸や九州など遠方から珍しい産物が渡つて来ます。大消費地である大坂とも直結しており、商品を高値で販売しました。

錦見町は岩国城下で消費する物資を売つての利益なので、城下町の人口に見合つた経済活動しかできませんでした。玖珂町は山陽道が通つており、宿場町として栄えましたが、大名行列が宿泊をすると赤字になります。御用の運送や連絡にも出費が

かさんで、町の財力はそこそこでした。ところが、柳井津は海運を利用して大量の物資が入出し、大儲けをしました。「岩国領の御納戸」との俗称をつけられましたがもつともです。

その繁栄した柳井津の豪商たちにも榮枯盛衰はつきもので、新興商人が割り込み、「軒先を貸したところが、母屋を乗つ取られる」現象がおきました。周囲の農村から新規参入したのです。多くの例があつたでしょうが、その一つに森友家があります。

「しらかべ学遊館」に古い店の看板がいくつか陳列してあります。その中に「周防柳井津・余田村・人参三蔵圓・本家調合所・森本家」と刻まれた看板があります。余田村からの転入時期は不明ですが、柳井津町へ転入して、漢方薬の調合を行う薬局を営みました。朝鮮人参の粉末が主力商品だつたことがわかります。

「むろやの園」の小田家は、新庄村からの転入です。もう亡くなられた小田善一郎さんが言われるには「うちが移転して来る前は、東隣りの貞末家が柳井津一番の分限者だったと聞いています。転入した時には貞末家の敷地の一部を借りて、商売を始めたようです。初めは生活必需品の雑貨を商つていました。やがて菜種を農民から買い入れ、蒸して絞り、灯し油を生産して販売しました。大坂へも船で出荷したようです。量が多くなつて九州や北陸などから原料の菜種を集めました。やがて小田家の「むろやは」は、貞末家の「きじや」の財力を越えて、貞末家の土地や家屋を買い取りました。柳井津は土地が狭く店舗がひしめき合つて



【農村から新規参入して豪商になった「むろや」】

国指定重要文化財住宅の国森家も新庄村へ移転し、油によって財をなしました。江戸時代には守田と称しましたが、明治時代の初めに国森に苗字を替えました。

いたので、殿様に願い出て岸辺の埋め立て許可を得、久保町の引っ込んだ海岸線などを自費で埋め立てました。元の銀天街の所も川へ押し出しました。今、柳井川の護岸は直線ですが、もとの岸は出入りがあつたのです。護岸の建築費を出したのですから、新たな土地は小田家の所有になりました。順調に発展していきました。しかし幕府は商品経済が発展しすぎるのを抑えるため、流通量を制限してきました。とくに菜種油への監視は厳しく、違反した時の罰金と商業停止処分は大きなダメージになりました。そこで、油業は縮小し、両替商の性格を強めます。農民に金を貸して地主となり、地代米を主な収入源にしました」とのことでした。

## 『偶然・出会い』

副会長 山近絹代

# 資料館便り

十月下旬のある日、当館に来られた青年が弘前・柳井交流事業特別展示を見られ、「これですネ！交流の記事見ました。」と言われた。その青年は、青森県つがる市から来られ、五所川原の博物館にお勤めの社会人二年目の方で、八月に弘前に我々が行つた際に大歓迎を受けたことは前号の当紙に書かせてもらつたが、その新聞記事やテレビを見られたとのことだつた。柳井へは白壁の町並み目的で来られたそうで、十代の頃から古い町並みが好きで、各地を訪ねておられるそうだ。

彼とそんな話をしているところに、アメリカのミネソタ州から、五十四年前子供の頃に柳井にいたといわれる方が奥様連れで来られた。日本語を忘れていたが、数年前から勉強を始めたとのことで、きれいな日本語を話される。今回は二か月半の予定で日本各地を回られ、柳井から四国へ渡り、そのあと青森の縄文遺跡を訪ねるとのこと。

そこで、居合わせた先程の青森の青年に

話振ると、何とその青年が縄文遺跡の芸員とのこと！偶然！私自身、昨年二月に講演でお越しいただいた今井様の数ある肩書の中で、「縄文の会会長」というものがあつたので、講師紹介をするにあたり、青森県に縄文遺跡が多く、特別史跡「三内丸山遺跡」についても調べていたので、二人の話に加わることができて良かった。

また、十二月も下旬になつて、京都から来られたピアニストの方とお話ししていただき、その方が私の同級生の今は亡きドラマーのF君と一緒に仕事をされたことがあることが分かつた。『世間は狭い！』と二人で話していると、そこに、東京・国立からのお客様が来られ、その方と「国立は良いところですね」などと話していると、先ほどのピアニストの方も若いころ国立に住んでおり、またF君も住んでいたと話され、三人が「国立」ですっかり盛り上がつた。

今年の仕事始めの日、アメリカ・イリノイ州の青年が立ち寄られた。以前徳島に一年いたことがあるという。私が、数年前だがイリノイ大の先生を「案内したことがあつたし、柳井ロータリークラブがイリノイ人と交流していることを知つていたので、共通の話題ができて良かった。

経験したこと、調べたことは無駄にならないし、それらが役立つ「偶然・出会い」があることが実に面白い。

今年も楽しい年になりますように・・・。

### 【編集後記】

・令和最初の年明けを楽しく過ごされたことと存じます。干支で言えば今年は庚子(かのえね)、庚も子もともに新しい局面に入るという意味だそうです。特に、子は、動物ではネズミがあてはめられます、ネズミは、子孫繁栄の象徴で、子宝や財を蓄えるシンボルとのことです。期待したいものです。

・今年は、東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。本紙1頁に木阪さん自ら書いておられるように、柳井市の聖火ランナーの一人に選ばれたとのこと。5月14日、できれば白壁通りを走ってもらいたいものです。

・地球温暖化のせいでしょうが、この冬は暖冬になっており、今後の予報もこの傾向は続くとのこと。私ども高齢者には過ごしやすくていいのですが、雪をアテにしている人々は困っておられるようです。典型的には、秋田県の横手市の観光協会。恒例の「かまくら」祭の中止も視野に入れないといけないとか。何しろ、1個のかまくらを作るので、雪が約30トン必要なそうです。天から以外簡単に調達できる量ではありませんよね。

・今年も本紙ご愛読のほどを！ (事務局 國森)

### 平成31年／令和元年度第3四半期 町並み資料館入館者一覧

	R1/10-12	R1/12 現在累計
町並み資料館		
入館者数	4,897	250,107
前年同期比	111.6%	
松島記念館		
入館者数	1,087	102,365
前年同期比	87.1%	